

はり薬(貼付剤・ちょうふざい)といえ、打ち身・ねんざのときなどに使う消炎鎮痛作用を持つ湿布薬を思い浮かべますが、それだけではありません。最近では全身性の作用を期待して、皮膚から吸収されやすく、しかも内服するより確実に効果を表す成分を含んでいる「はり薬」がいろいろでてきました。



1回貼れば、主成分が皮膚から血液中に徐々に吸収されて長く効果が持続するとか、胃腸を荒らしやすい薬は皮膚から吸収させることで胃腸を通らないのでその心配がないなどの利点があります。

一般に薬局の店頭で販売されているものを省いて、処方せんによって使われる医療用「貼付剤」に限定して紹介します。

一番よく使われるのは消炎鎮痛剤です。これは数多くあり、よく知られているので略します。

1. 狭心症の予防に使われるニトログリセリンや硝酸イソソルビドを主成分とした貼付剤があります。ニトログリセリンの舌下錠は1時間ぐらいしか効果がありませんが、貼付剤は24時間効果が持続します。1日に1回、胸や腹、大腿などの柔らかい部位に貼れば、成分が皮膚を通過して血液の中に入り心臓で効果を発揮します。
2. 更年期障害の治療にも貼付剤が使われます。女性ホルモンの一種のエストラジオールを主成分とし、2日に1回の使用で効果があります。
3. ぜん息の治療・予防に効果を発揮する貼付剤も発売されました。塩酸ツロブテロールを主成分とするもので、飲み薬や吸入剤では短時間しか効果が保てないものを貼付剤にすることで24時間効果を持続させることが期待できます。
4. タバコをどうしても止めたい人のために、禁煙補助剤としての貼付剤もあります。ニコチンを主成分とし、タバコの代わりに皮膚から徐々に吸収させ、ニコチン切れを防止しながら約8週間かけて禁煙を成功させようとするものです。

その他、海外では乗り物酔い防止の貼付剤も使われているようですが、日本ではまだ発売されていません。

いずれの貼付剤も、人によって皮膚のかゆみなどの副作用が現れることがあります。